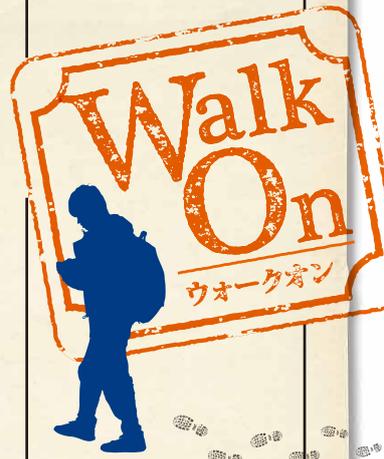




金勝川の畔から灰塚山を望む。左は灰塚橋、右の建物は栗東市出土文化財センター（現在展示公開休止中、見学は要予約）。



灰塚山

伝説と歴史の舞台を歩く

DATA 栗東市
 ●歩行距離▶約2km
 ●歩行時間▶約40分

地名の由来となった栗の巨木伝説を探る

栗東市は、古くは旧近江国栗太郡（現在の栗東市と守山市、草津市、大津市の一部を含むエリア）と呼ばれ、文字通り「栗」が地名の由来になっている。

伝承によれば、栗太郡に一本の栗の巨木が生えていた。その幹は500人が手をつないでやっと抱えられるほどの太さで、朝には丹波国、夕には伊勢国にその影を落としていた。枝葉は郡全体を覆い、日が当たらない田畑は不作に悩まされたという。

時の帝が掃守宿禰を遣わし、この木を伐り倒そうとするが、夜のうちに蔓の精が切口を癒やし、朝になればなんと元通りに。幾日もかけて蔓草を刈り払い、ようやく木が伐り倒されると、巨木は七日

栗東市小野にある万年寺にも栗の木の伝承がある。寺伝では、朝敵に敗れた聖徳太子をある老人が助け、栗の木の下に匿（かくま）ったという。この木の下に前身の小野寺が開かれ、後に万年寺として再興。本尊の聖観世音菩薩立像は、太子が栗の木を彫って作ったと伝えられる。



万年寺の鐘楼門

▶万年寺 / JR草津駅東口より帝産バスコミュニティセンター金勝行まで「東宝ランド」下車、徒歩5分

七夜焼かれて灰に。この灰を集めて塚にしたのが、安養寺山の西に位置する灰塚山である。

この伝承は平安時代末期に成立した「今昔物語集」がベースとなり、いくつものバリエーションで語り継がれている。哲学者梅原猛の小説集『ものかたり』にも「天狗の

住む木」としてこの説話が紹介されている。

周辺には多くの古墳があり、この山の稜線にも数基の円墳があったようだ。残念ながら山内を散策する道はない。金勝川の灰塚橋あたりから、巨木の伝説に思いをめぐらせてみるのはいかがだろうか。



モデルコース

栗東運動公園バス停 15分、名神高速道路高架下 6分
 灰塚橋・栗東市出土文化財センター 15分、栗東運動公園バス停

※移動時間はあくまでも目安です（休憩時間等含まず）。
 ※JR手原駅からくりちゃんバス治田循環線（左回り）で「栗東運動公園」まで約5分、JR草津駅東口から帝産バス栗東循環線で「栗東運動公園」まで約15分、JR手原駅から「栗東運動公園」まで徒歩約25分

バックナンバーをKEIBUNホームページ「湖国滋賀ウォーキングマップ」で公開中！
<http://www.keibun.co.jp>



5月からはWEB版「Walk On」をお楽しみください

5月10日にKEIBUNホームページがリニューアルします。「Walk On(ウォークオン)～伝説と歴史の舞台を歩く～」の最新版は、引き続きホームページでお届けします。スマートフォンでもご覧いただけますので、スマホ片手にぜひお出かけください。